

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第42週の発生動向

定点医療機関からの報告総数は574人(定点あたり18.7)で、前週とほぼ同じであった。

前週に比べ多かった主な疾患はインフルエンザと水痘で、減少した主な疾患は伝染性紅斑と流行性耳下腺炎であった。

インフルエンザの報告数は8人(0.14)で前週比267%と増加した。延岡(0.57)、都城(0.40)保健所からの報告であった。年齢別では5歳以下が全体の38%、6-9歳が12%、20歳代-50歳代が50%を占めた。

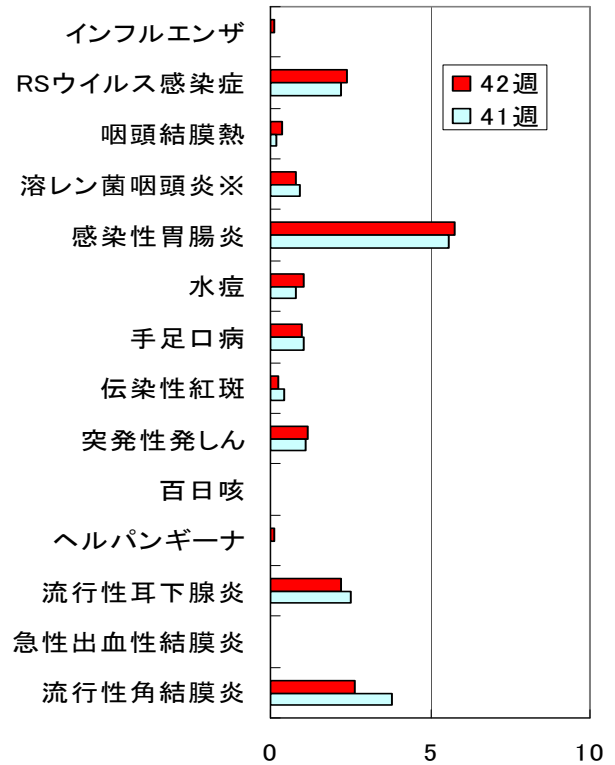
水痘の報告数は37人(1.0)で前週比132%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(0.86)と比較すると約1.2倍である。延岡(2.0)、都城(1.3)、宮崎市(1.2)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳から3歳で全体の約7割を占めた。

無菌性髄膜炎が宮崎市・日南(各1人)保健所から報告された。宮崎市保健所からは11歳の女兒、日南保健所からは5歳の男児でMumps Virus疑い。

マイコプラズマ肺炎が延岡・高鍋(各1人)保健所から報告された。延岡保健所からは4歳の男児、高鍋保健所からは3歳の女児で、原因菌はいずれも *Mycoplasma pneumoniae*。

クラミジア肺炎1例が高鍋保健所から報告された。3歳の女児で原因菌は *Chlamydia pneumoniae*。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

基準値を超えた疾患はなかった。

■ 全数把握対象疾患

1 類感染症 : 報告なし。

2 類感染症 : 結核7例が宮崎市(3例)、日南(2例)、小林・中央(各1例)保健所から報告された。

- 《宮崎市保健所》
 - ・80歳代の男性で肺結核。血痰がみられた。
 - ・50歳代の女性で無症状病原体保有者。
 - ・50歳代の女性で無症状病原体保有者。
- 《日南保健所》
 - ・60歳代の男性で肺結核。咳、痰がみられた。
 - ・70歳代の男性で肺結核。発熱、呼吸困難がみられた。
- 《小林保健所》
 - ・80歳代の男性で疑似症患者。胸水貯留がみられた。
- 《中央保健所》
 - ・80歳代の男性で肺結核。

3 類感染症： 報告なし。

4 類感染症： 日本紅斑熱 1 例が日南保健所から報告された。60 歳代の男性で発熱、刺し口、発疹、
がみられた。

5 類感染症： 報告なし。

■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□ インフルエンザ検出速報（平成 22 年 10 月 18 日～10 月 24 日までに検体採取分）

同定ウイルス名	年齢	性	採取日	臨床診断名	材料	同定日
インフルエンザAH3型	1	女	10.20	インフルエンザ、40℃、咳、痰、鼻水	鼻腔ぬぐい液	10.26
インフルエンザAH3型	6	男	10.23	インフルエンザ、37.7℃、咳	鼻腔ぬぐい液	10.26
インフルエンザAH3型	1	女	10.23	インフルエンザ、40.8℃、咳、痰、鼻水	鼻腔ぬぐい液	10.26
インフルエンザAH3型	1	男	10.22	インフルエンザ、38.6℃、鼻水	鼻腔ぬぐい液	10.26
インフルエンザAH3型	55	女	10.23	インフルエンザ、37.9℃、咳、痰、咽頭痛	鼻腔ぬぐい液	10.26

○延岡保健所管内と都城保健所管内でインフルエンザA型の報告があった。延岡の4例、都城の1例について遺伝子検査を実施した結果、インフルエンザAH3(A香港型)が検出された。県内でA香港型が検出されたのは今シーズン初めてである。全国的にはA香港型が新型より多く検出されている。

□ ウイルス（平成 22 年 10 月 20 日～10 月 26 日までに分離同定）

同定ウイルス名	年齢	性	採取日	臨床診断名	材料	同定日
エコーウイルス25型	10M	男	10.2	エンテロ疑い、39.2℃、丘疹	咽頭ぬぐい液	10.25

○発疹症の乳幼児からエコーウイルス25型が検出された。

□ 細菌（平成 22 年 10 月 13 日～10 月 26 日までに分離同定）

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	分離材料	分離同定日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4	女	9.29	咳	咽頭ぬぐい液	10.13
病原血清型大腸菌(O128:H2)	0～4	女	10.7		便	10.15
<i>Shigella flexneri</i> 2a (赤痢菌)	80代前半	男	9.24	発熱(39.3℃)、嘔吐、下痢	便	10.5
<i>Salmonella</i> Agona (O4:f,g,s:-)	40代後半	男	10.12	発熱(38.5℃)、下痢	便	10.20
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1,5)	0～4	女	10.13		便	10.21
腸管出血性大腸菌(O91:HUT VT1)	30代後半	女	10.8	無症状	便	10.21
<i>Salmonella</i> Saintpaul (O4:e,h:1,2)	0～4	男	10.19	発熱(40.0℃)、下痢、腹痛	便	10.22

○ 9月下旬に、百日咳菌が分離された。百日咳菌は菌の分離に時間を要し、また分離率も悪いことから、診断は血清学的診断が行われることが多いが、PCRやLamp法などの遺伝子診断により迅速に診断できる。今回の患者は、発症後10日ほど経過していたが、PCR、Lamp法、培養により診断された。

これまで百日咳は小児の疾患とされ、今回の患者も乳幼児であるが、最近では成人の発症も年々増加している。成人発症例は、症状が典型的でないため、見逃されやすく、感染源として周囲へ感染拡大してしまうことがあり、注意が必要である。

○ 9月下旬に、赤痢菌が検出された。患者は80代前半の男性で、発熱(39.3℃)、嘔吐、下痢を呈したが、本人および周囲に海外旅行歴はなく、感染経路は不明であった。

■ 全国第 41 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 8.8 で、前週比 95%と減少した。今週増加した主な疾患は水痘で、減少した主な疾患はヘルパンギーナとインフルエンザであった。

水痘の報告数は 2,312 人 (0.76) で、前週比 133%と増加した。例年同時期の約 1.4 倍である。島根県・福井県 (各 1.4)、石川県 (1.2) からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の約 7 割を占めた。

流行性耳下腺炎の報告数は 3,083 人 (1.0) で、前週比 97%とほぼ横ばいであった。例年同時期の約 1.4 倍である。宮崎県・島根県 (各 2.5)、山口県 (2.3) からの報告が多く、年齢別では 2 歳から 6 歳で全体の約 7 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 250 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 11 例、腸管出血性大腸菌感染症 59 例
- 4 類感染症 : A型肝炎 2 例、つつが虫病 2 例、デング熱 5 例、日本紅斑熱 3 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 15 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 6 例、急性脳炎 1 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 25 例、髄膜炎菌性髄膜炎 1 例、梅毒 4 例、破傷風 2 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 3 例、風疹 1 例、麻しん 4 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第42週(10月18日～10月24日)

疾病名		第41週	第42週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	3	8		4	4						
	定点あたり	0.05	0.14	0.00	0.40	0.57	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	79	86	15	10	27	5		5		23	1
	定点あたり	2.19	2.39	1.50	1.67	6.75	1.67	0.00	1.25	0.00	5.75	1.00
咽頭結膜熱	報告数	6	14	2	3	3	6					
	定点あたり	0.17	0.39	0.20	0.50	0.75	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	33	29	8	2	5	3		6		5	
	定点あたり	0.92	0.81	0.80	0.33	1.25	1.00	0.00	1.50	0.00	1.25	0.00
感染性胃腸炎	報告数	201	207	52	37	9	17	25	25	7	30	5
	定点あたり	5.58	5.75	5.20	6.17	2.25	5.67	8.33	6.25	7.00	7.50	5.00
水痘	報告数	28	37	12	8	8	3	1	2		3	
	定点あたり	0.78	1.03	1.20	1.33	2.00	1.00	0.33	0.50	0.00	0.75	0.00
手足口病	報告数	38	36	16	6	10			1		1	2
	定点あたり	1.06	1.00	1.60	1.00	2.50	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	2.00
伝染性紅斑	報告数	16	9	4	3			1	1			
	定点あたり	0.44	0.25	0.40	0.50	0.00	0.00	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	39	43	13	7	5	2	1	8		6	1
	定点あたり	1.08	1.19	1.30	1.17	1.25	0.67	0.33	2.00	0.00	1.50	1.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	2	4	2		1	1					
	定点あたり	0.06	0.11	0.20	0.00	0.25	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	91	80	20	4	21	12	4	5		12	2
	定点あたり	2.53	2.22	2.00	0.67	5.25	4.00	1.33	1.25	0.00	3.00	2.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	23	16	14	2							
	定点あたり	3.83	2.67	4.67	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		2	1			1					
	定点あたり	0.00	0.29	1.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数		2			1			1			
	定点あたり	0.00	0.29	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数		1						1			
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第42週)

2類感染症	結核	175例(7)				
3類感染症	細菌性赤痢	1例	腸管出血性大腸菌感染症	48例		
	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	1例
4類感染症	デング熱	1例	日本紅斑熱	5例(1)	マラリア	2例
	レジオネラ症	2例	レプトスピラ症	2例		
5類感染症	アメーバ赤痢	4例	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎	6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒	5例
	破傷風	5例	麻しん	1例		

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

インフルエンザにかからないために。(10月18日～10月24日)

インフルエンザの流行が心配される時期となりました。予防する有効な方法は、食事の前や外出から戻ったときのうがいと石けんでの手洗い、バランスのよい食事と十分な休養、それから予防接種をうけることです。

今週報告のあったインフルエンザA型 5 例について遺伝子検査を実施した結果、A 香港型が検出されました。県内でA 香港型が検出されたのは今シーズン初めてです。全国的にはA 香港型が新型より多く検出されています。

ワクチンは接種してから抗体が出来るまでに約 2 週間かかります。必要に応じ早めにワクチン接種をしておきましょう。また、高齢者や持病、卵や鶏肉のアレルギーをお持ちの方は事前に医療機関に相談しましょう。

ワクチンをうっても 100%インフルエンザを防ぐことはできませんが、発症やかかっても肺炎や脳炎などの重い合併症があらわれることを防ぐ効果が期待できます。

また、みずぼうそうの報告も増えています。みずぼうそうにかかると、37～39 度の熱が出て、それと同時に強いかゆみを伴った小さな水ぶくれが全身にできます。人にうつる力が強いので、水ぶくれが完全にかさぶたになるまで外出は控えましょう。